

JEC 地域移行支援計画書 No. 1		施設長承認	支援チーム審査	作成
利用者	J E C さん 女性 20 歳	 平成〇年〇月〇日	 平成〇年〇月〇日	 平成〇年〇月〇日
利用期間	平成〇〇年〇月〇日～平成〇〇年〇月〇日			
作成者	佐藤友哉 精神保健福祉士 臨床心理士			

1. 経緯	医療保護入院の結果、症状寛解（抑うつ状態の寛解、自傷行為の消失）に至ったが、家族関係の不和より家庭復帰は現実的ではない。そこで、当事者の心理支援（感情・衝動性コントロールと自己表現のトレーニング）、家族の心理支援（心理教育・家族間交流トレーニング）を通じて家族機能の健全化を目指した支援の必要性を理解・同意され、当施設入所に至った。		
2. 主訴（希望）	1) 本人： 自分らしく生きたい、自立したい、親に障害のことを理解してもらいたい。 2) 家族： 問題行動を減らして、ちゃんとした仕事に就いて欲しい。		
3. 疾患その他	1) 精神疾患： 解離性障害、気分障害（気分変調性障害）。 2) 問題行動： 自傷行為（リストカット、過剰服薬）、怒鳴る、奔逸な異性関係。		
4. 支援目標	前期 1) 入所支援。 3) 心理アセスメント。 4) 感情・衝動性コントロールの訓練。	中期 1) 親子間交流の練習。 2) 適切な感情表出・自己表現の練習、ストレス耐性の強化と柔軟な対処行動の学習。	後期 1) 退所後の進路決定。 2) 退所後生活に向けた行動計画と環境調整。 3) 帰宅練習。
5. 介入方法	・院内面接（出張可能）。 ・査定面接、心理検査。 ・個別心理療法（認知行動療法的介入、精神力動的介入）。 ・集団心理療法（心理学講座、モデリング等）。	・家族療法的介入。 ・個人認知行動療法（セルフ観察法、アサーション訓練法など）。 ・集団療法（対人スキル訓練、柔軟なコーピング行動の学習）。	・進路相談面接。 ・行動計画。 ・外泊トレーニング。 ・各種介入効果の確認。 ・終結面接。
6. 連携機関	・退院後生活環境相談員（前任医療機関）。 ・当センター連携先の心療内科医（市内診療所）。		
7. 付記	当事者と家族の不和な関係は、当事者の心理的機能（現実検討能力）の不安定さに基づく問題行動の喚起とそれに対する家族の巻き込まれ現象（疲弊状態、怯え）として考えることができる。そこで、集中的な心理支援には、まず当事者と家族の各者に個別支援を提供し、並行して家族全体の交流機会や練習の確保、当事者の進路支援を含めた家族関係の再調整を支援することが合理的支援と考えられる。		